

有床診療所の評価について

中医協 基本問題小委員会

2007年11月7日
社団法人 日本医師会

有床診療所の機能と減少

◆有床診療所は住民の居住地に近い場所で、地域ニーズに合致した医療サービスを提供してきた。全般に、都市部では、産科、整形外科、眼科などの専門単科の診療科が身近な入院施設として病院の代わりとなり、地方部では、内科や外科などが地域のかかりつけの医師として機能している。僻地・離島では、病院が無く、入院機能を有する唯一の施設として大きな役割を果たしている。

◆しかしながら、有床診療所の無床化が進み、過去20年間に半減し、施設数は12,499施設となっている(1987年の施設数を100とすると2007年には50.0)。有床診療所がなくなった地域の住民は入院のアクセスポイントを失っている。

診療所施設数の伸び率の年次推移(1987年を100とした場合)

